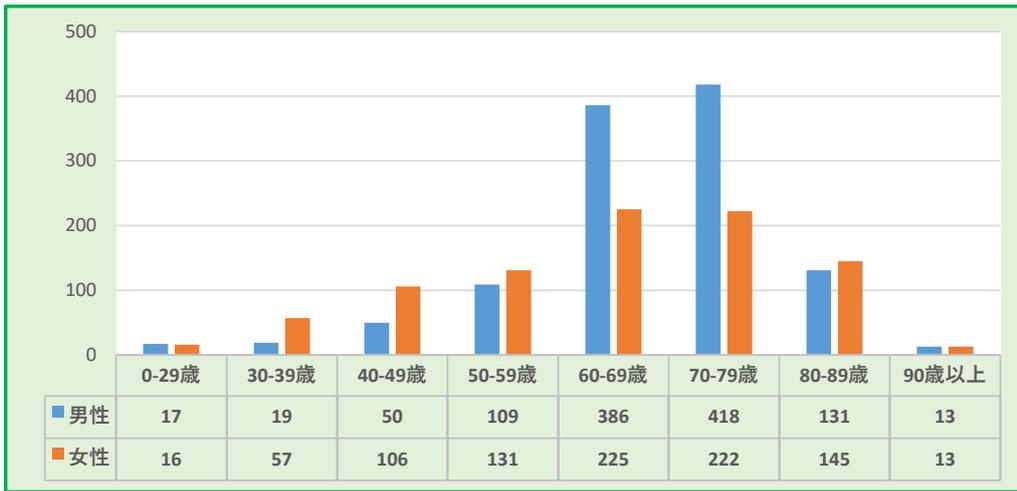


男女別登録数-年齢階級別



男性 1,143
女性 915
合計 2,058

年齢階級別登録数の上位5部位 -男性-

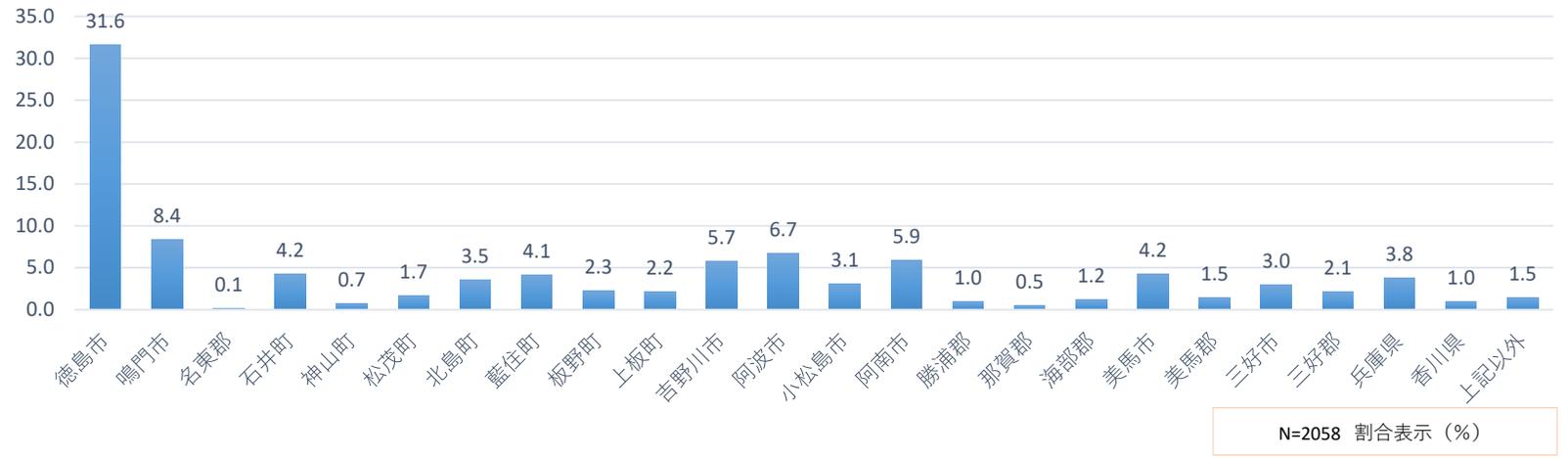


年齢階級別登録数の上位5部位 -女性-

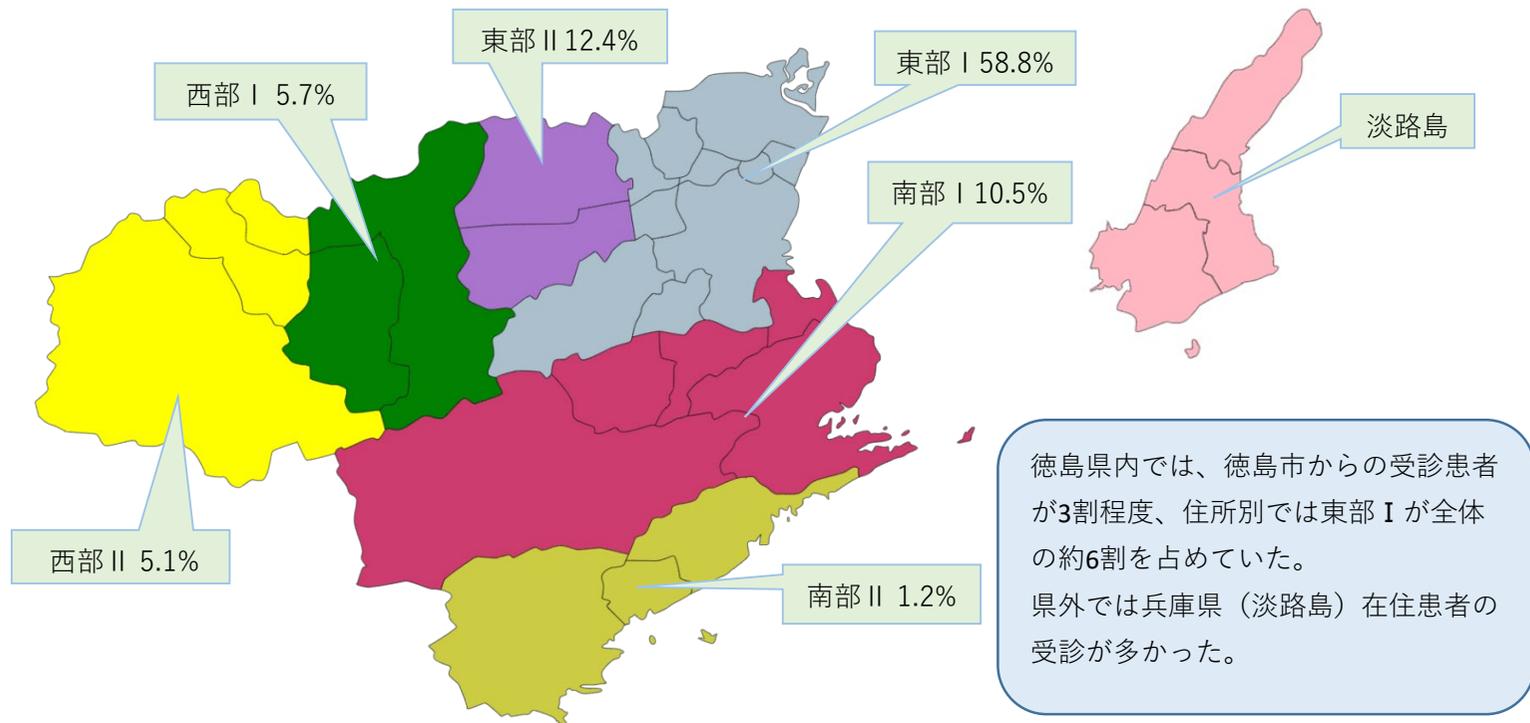


年齢階級別では、男女とも70歳代と60歳代が多く30歳～59歳では男性より女性の件数が多い。年代別割合は、男性は60歳代と70歳代を併せると全年代の7割を占めている。部位別では、男性は55歳以上の前立腺がん登録数が多い傾向にある。女性は40歳未満では子宮頸がんが多く、40-84歳においては乳房が最多であった。男女とも各性別特有のがんが上位である。

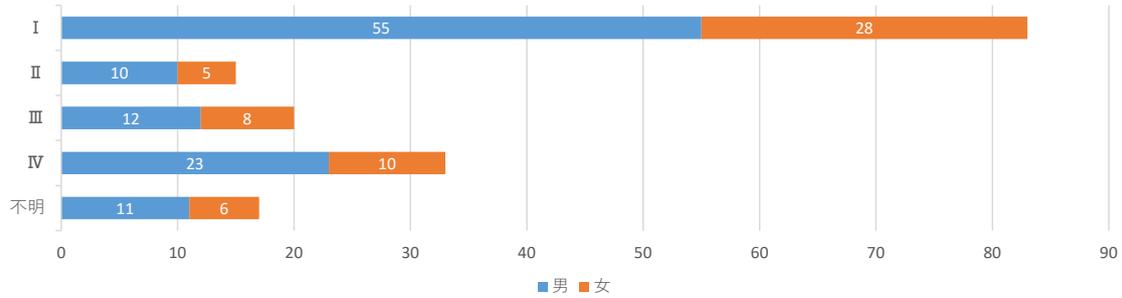
市町村別登録数（上皮内がんを含む）



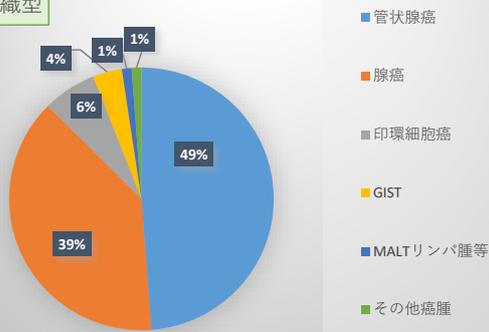
	住所	割合 (%)
東部Ⅰ	徳島市	31.6
	鳴門市	8.4
	名東郡	0.1
	石井町	4.2
	神山町	0.7
	松茂町	1.7
	北島町	3.5
	藍住町	4.1
	板野町	2.3
	上板町	2.2
	東部Ⅱ	吉野川市
阿波市		6.7
南部Ⅰ	小松島市	3.1
	阿南市	5.9
	勝浦郡	1.0
南部Ⅱ	海部郡	1.2
西部Ⅰ	美馬市	4.2
	美馬郡	1.5
西部Ⅱ	三好市	3.0
	三好郡	2.1
県外	兵庫県	3.8
	香川県	1.0
	上記以外	1.5
	総数	100.0



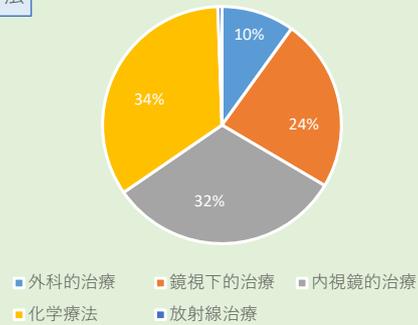
治療前ステージ別登録数



組織型

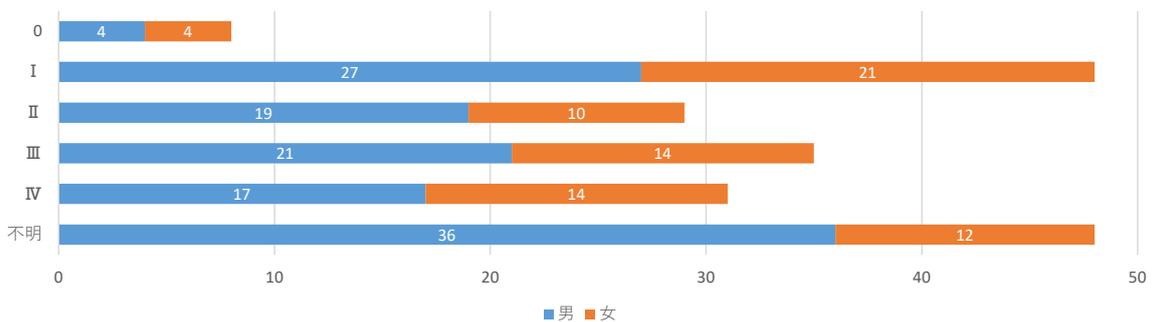


治療方法

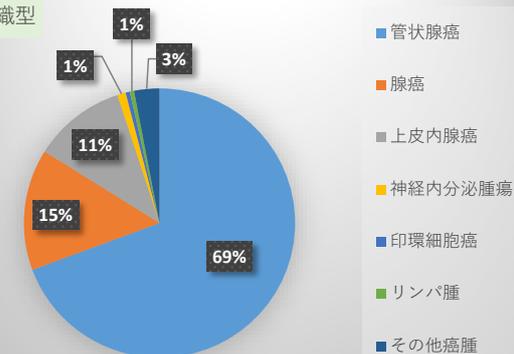


胃がんは、男性111件、女性57件で総数は168件、男性が女性の1.9倍であった。ステージ別ではⅠ期が最も多かった。組織型は管状腺癌が半数程度を占め、腺癌とあわせると88%であった。治療方法では、手術は「内視鏡的治療」が最も多く、次いで「鏡視下の治療」の結果であった。「化学療法」は3割程度実施されている。

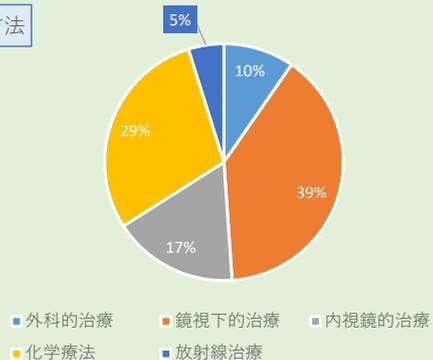
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法

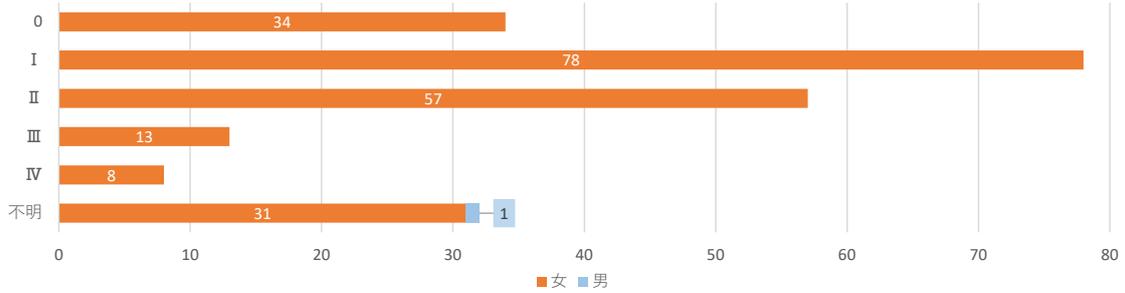


大腸がんは、男性は124件、女性は75件で総数は199件であり、男性が女性の1.7倍であった。ステージ別はⅠ期が最も多く、組織型では管状腺癌が全体の7割程度を占め、次いで腺癌が多い。治療方法は、手術では「鏡視下の治療」が最も多く、「化学療法」も積極的に実施されている。

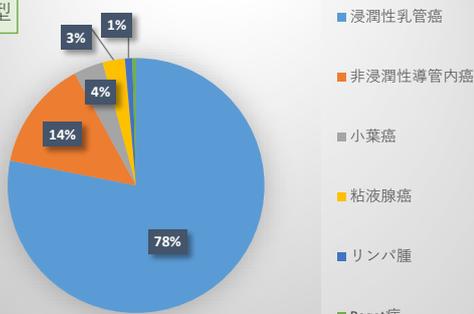
2018年症例 - 乳房 -

徳島大学病院

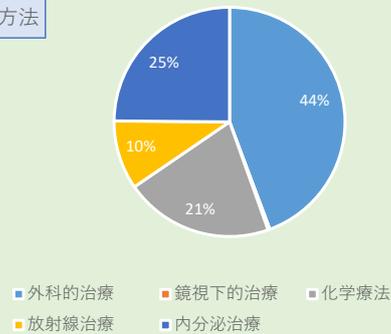
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法



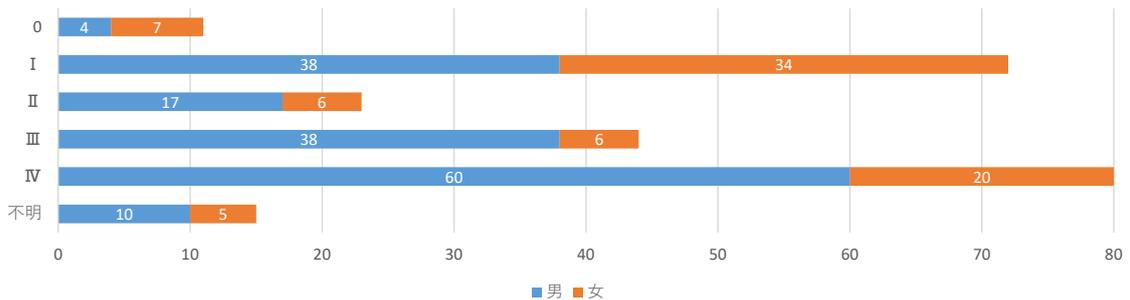
乳がんは、総数222件、概ね女性の登録であった。

ステージ別はⅠ期が最も多く、次いでⅡ期が多かった。組織型では、浸潤性乳管癌が全体の78%を占め、次いで非浸潤性導管内癌、小葉癌の症例があった。治療方法は、手術においては「外科的治療」が大半であり、「化学療法」や「放射線治療」、また「内分泌治療（ホルモン療法）」についても積極的に実施している。

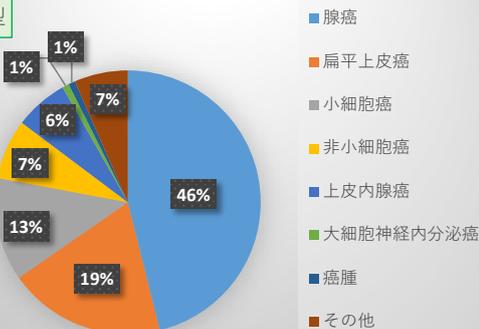
2018年症例 - 肺 -

徳島大学病院

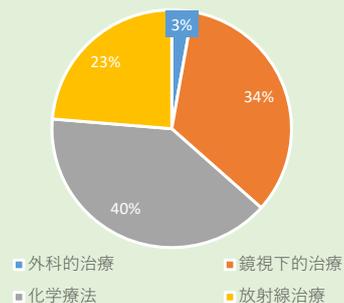
治療前ステージ別登録数



組織型

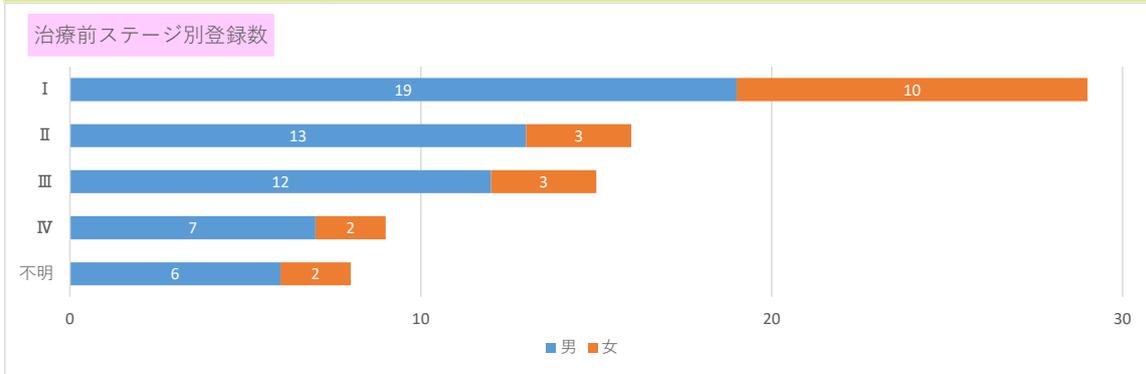


治療方法



肺がんは、男性167件、女性78件、総数245件であり男性は女性の2.1倍であった。

ステージ別ではⅣ期が最も多く、次いでⅠ期の結果であった。組織型では腺癌が全体の約半数を占め、次いで扁平上皮癌、小細胞癌の症例があった。治療方法は、「鏡視下の治療」と「化学療法」が大半を占めており、「放射線治療」も実施されている。

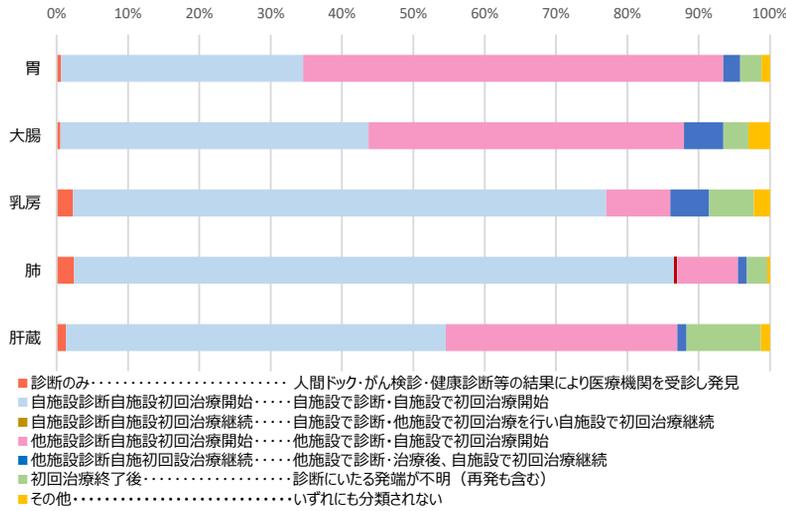


※TAE：肝動脈塞栓療法 RFA：ラジオ波焼灼術

肝がんは、男性は57件、女性は20件で総数は77件、男性が女性の約3倍であった。
 ステージ別では I 期が最も多く、組織型では、肝細胞癌が全体の75%を占め、次いで胆管癌が多い。治療方法は、「化学療法」と「TAEorRFA」の実施が多く、次いで「外科的治療」の結果であった。

症例区分

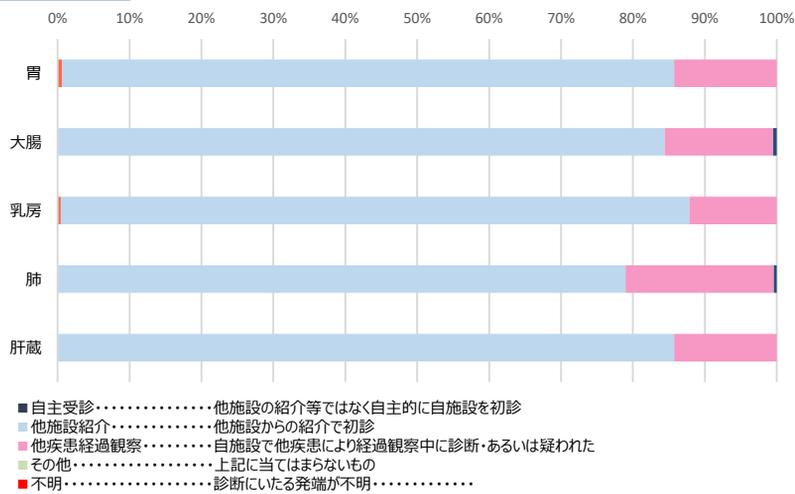
当該腫瘍の診断および初回治療の過程に、自施設でどのように関係したかを判断



	診断のみ	自施設診断自施設初回治療開始	自施設診断自施設初回治療継続	他施設診断自施設初回治療開始	他施設診断自施設初回治療継続	初回治療終了	その他
胃	1~3	57	0	99	4~6	4~6	1~3
大腸	1~3	86	0	88	11	7~9	4~6
乳房	4~6	166	0	20	12	14	4~6
肺	4~6	207	1~3	21	1~3	7~9	1~3
肝臓	1~3	41	0	25	1~3	7~9	1~3

来院経路

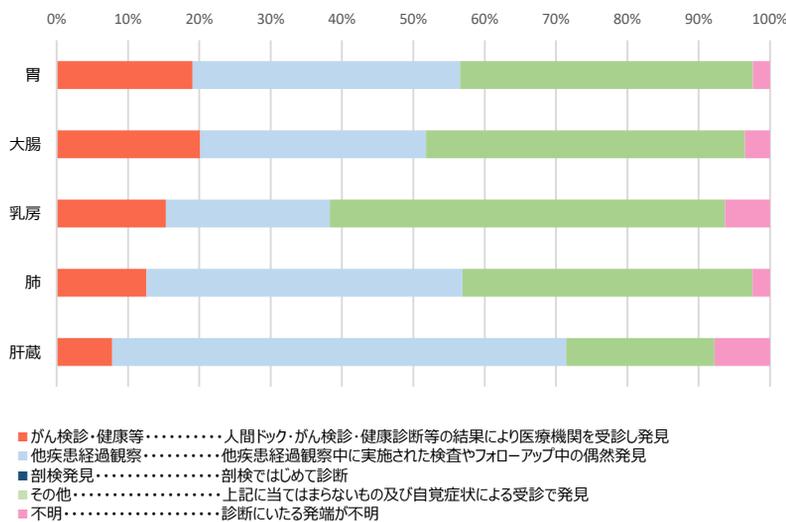
当該腫瘍の診断・治療のため、どのような経路によって自施設を受診したのか把握



	自主受診	他施設紹介	他疾患経過観察中	その他	不明
胃	1~3	143	24	0	0
大腸	0	168	30	1~3	0
乳房	1~3	194	27	0	0
肺	0	195	51	1~3	0
肝臓	0	66	11	0	0

発見経緯

当該腫瘍が診断される発端となった状況の把握



	がん検診健診等	他疾患経過観察	剖検発見	その他	不明
胃	32	63	0	69	4~6
大腸	40	63	0	89	7~9
乳房	34	51	0	123	14
肺	31	109	0	100	4~6
肝臓	4~6	49	0	16	4~6

症例区分では、全体の8割弱の症例が初回治療に関り、乳がん・肺がんにおいては自施設診断自施設初回治療開始例が多くなっている。
 来院経路では、5部位すべてにおいて他施設紹介が大半を占めている。
 発見経路では、その他に含まれる自覚症状からの発見が早期発見に繋がる健診等での発見より上回る結果となった。中でも乳がんは、自覚症状での発見が全体の半数近くの数となっている。